

富士香料化工 株式会社

ものづくり技術

最新型の分析装置の導入によって 製品開発力と顧客対応力の強化を図る

事業内容 美味しさの鍵を握る 食品香料の開発・製造

1964年(昭和39年)の創業以来、長年に渡って顧客の要望に合わせた食品香料の開発・販売を手掛けてきた。創業当初は、洋菓子店やパン屋を得意先として食品香料を販売していたが、現在は大手食品メーカーを得意先とするまでに至っている。ライフスタイルや食生活の変化に合わせて、常に食生活を充実させる「香り」を提供し続けてきた。

現在の主力事業は、お菓子、アイスクリーム、デザート、飲料に入れるスイート系の香料の開発・販売である。加えて、ビタミン飲料などそのままでは飲みづらい飲料を飲み

やすくするマスキング香料も製造している。国内・海外の食品・飲料メーカーを中心に同社の香料が納入されている。

同社の特徴としては、得意先の要望に合わせて何千種類もある原料を組み合わせて香料を提案できる点にある。フレーバー開発室を設け、要望されている香りの成分を解析し、要望に合わせた食品香料を迅速に作れることが強みとなっている。

補助事業 高度化する要望への的確な対応を目的に ガスクロマトグラフ分析装置一式を導入

同社の得意先である、製菓、製パン、飲料、デザート、冷菓メーカー各社において、製造品目の増加が見受けられる。この背景には、コンビニエンスストアやスーパーマーケットの店頭では他社製品との差別化が必要で、よりインパクトのある味が求められていることなどがある。さらに食品・飲料メーカー各社の製品開発スピードも上がっている。

上記のような市場環境の中で、同社としては、より得意先の要望を的確に捉え、香り成分の解析時間の短縮化を進め、食品香料の開発・製造にかかる時間を短縮しなければならない。しかしながら、従来の香料成分の分析装置では、老朽化が進んでいるために微量成分を検出できないという問題点や香り成分を効率良く分離できないという問題点があった。これでは、得意先の細かい要望に対して的確に答えることができない。

そこで、今回の補助事業では、ガスクロマトグラフ分析装置一式を導入し、解析力の向上・解析時間の短縮化を図り、これまで以上に要望にマッチした製品の開発を目指した。



▲ガスクロマトグラフ分析装置①

富士香料化工 株式会社

代表取締役社長 中村 敏章
〒648-0007 橋本市紀ノ光台3-1-17
TEL: 073-638-1271 FAX: 073-638-1122
URL: http://www.fuji-aromatic.co.jp

(業種)香料製造
(設立)1964年6月
(資本金)30,000千円
(従業員)45人

成果

高精度な微量分析が可能に 自社提案型の営業も増える

今回、新たにガスクロマトグラフ分析装置を導入したことによって香り成分の高精度な微量分析が可能となり、従来機では検出されなかった微量成分を検出できるようになった。微量成分を検出することで、得意先から求められている香り成分の再現性を高めることが可能となった。今のところ、サンプル提供が中心となっているが、製品化が進めば指定香料のまとまった受注が見込める。

また、分析に至るまでの温度設定や供給ガスの制御など機械内部の環境設定がすべて自動化され、作業時間の大幅な短縮につながっている。従来の分析機器では、急速に熱を逃がしたり、冷やしたりすることが容易ではなかったため、作業の待ち時間も短縮できている。新たに生み出すことができた時間は、新たな食品香料の開発に充当すること

ができており、結果的に依頼ベースではなく、同社からの提案型営業も増えている。

開発した食品香料が採用されるまで一定の時間を要するため、今後採用数は増えてくるものと推察される。



▲ガスクロマトグラフ分析装置②

今後の展開

多様化する得意先の要望に対し 即座に対応できるよう開発力を高める

最近の動向としては、健康食品メーカーからサンプルを依頼されることが増えており、健康食品独特の匂いなどのマスキングに対する要望が聞かれる。高齢化社会を迎える中で、今後、健康食品業界からの依頼が増えてくることも予想され、要望に応えられるような香料の開発に努めていく。

そのほか、調理フレーバーと呼ばれる調理後の匂いを表現して欲しいという要望も増えている。例えば、焼き芋の匂いなどで、応用開発室で調理した食品の成分解析を行った

上で、食品香料を作り上げる。食品・飲料メーカーの競争が厳しくなる中、様々な高度な要望が増えてくることも想定されるため、今回導入した分析機器を駆使して開発力を高めていきたいと考えている。

2017年3月には、大阪府大阪市城東区にある本社機能を和歌山県橋本市の橋本工場に移した。新工場で得意先の要望に即座に対応できる開発力を一層高めていく意向だ。



▲富士香料化工株式会社 本社・橋本工場

撮影:笹の倉舎/笹倉洋平